

～表紙絵の植物紹介～

【梨の花】

春の花である梨の花は、その白さから雪にたとえて「梨雪(りせつ)」と呼ばれることがあり、花言葉の由来にもなっています。

純白で清らかな花は何にも染まらずに広く愛情を分け与える様子を想起し「愛情」、「博愛」の花言葉ができたといわれます。

女の子の名前に、この「梨(り)」という字が人気なことも、この花を知ると納得です。

(文・寺田)



交流の家の取組紹介

【イングリッシュアドベンチャー】

新学習指導要領の本格実施に向け、国立の教育機関として、教育内容の改善と充実を目指し、赤城の森で英語体験をする「イングリッシュアドベンチャー」を今年度より実施する予定です。プログラムの目的は、キャンプの中で人間関係づくりのスキルの向上や積極的に仲間とコミュニケーションを図り、課題を解決する力を養うことです。特色としては、あかぎアドベンチャープログラムを英語で行うことにより、仲間づくりを大切にするとともに、英語も学べることです。



そこで、今年度の「イングリッシュアドベンチャー」の実施に向け、モデルキャンプとして、「英語留学in赤城」を平成30年1月13日～14日で実施しました。県内の高校生13名が参加し、オールイングリッシュで「あかぎアドベンチャープログラム」や「不思議な科学」などを体験しました。英語を聞いて、英語で動き、英語で発信しました。この体験を通して、英語を使うだけでなく、仲間づくりも同時に行うことができました。

また、3月27日～28日に開催した小学生対象のキャンプは定員20名に対して103名の応募があり、関心の高さがうかがえました。

このモデルキャンプを活かして、今年度の「イングリッシュアドベンチャー」を有意義なものにしていきたいです。(梁河)



◆◆スタッフからの一言◆◆

●野鳥のさえずりを人間の言葉に例える事を「聞きなし」といいます。この「聞きなし」がわかるようになると、姿が見えなくてもどんな鳥がいるかが、わかるようになります。ウグイスは「ホーホケキョ」と聞きなしがわかるから、見えなくてもウグイスと認識できますよ。野鳥観察って実は「耳」でも出来るのです。皆さんも交流の家をご利用されたときには是非、野鳥のさえずりに耳を澄ませてみてください。色々な野鳥がいることに気づきますよ。(小林)

●春となり、家の衣替えということも兼ね、何年も本棚にしまっていた本の整理をしました。普段の生活では気にも留めなかった本達が懐かしく、絵本は幼かった子どもに読み聞かせていた事を思い、その時間はとても貴重な時だった気がします。子ども達も大きくなり、個々の時間に追われる日常。我が家を旅立つ僅かな時間、大切にしていきたいと思います。玄関ロビーに図書コーナーがあります。空き時間に是非ご利用ください。(阿佐美)

●教員免許更新講習に参加された方から、パンジー、金魚草、リビングストーンデージーをいただき、バス駐車場にある石垣の花壇に植えました。殺風景な駐車場で、春を感じる素敵な駐車場に生まれ変わりました。こんなに人の心を豊かにしてくれる花たちを見て、とても微笑ましくなりました。「いやー、花ってほんとに素晴らしいものですね!」(小倉)

●交流の家での勤務もあっという間に一年が経ち、今年も桜の季節が到来しました。花見は、日本さくら名所100選にも選出されている、赤城南面千本桜がおすすです。昨年初めて見て感動したのがつい先日のこのことなのですが、今では職掌柄、どこへ行っても桜の木がてんく集病に罹っていないか気がかりで、花見が純粋に楽しめずに複雑な心境です。(岡)

重要なお知らせ

日頃からカラゴロリを
ご愛読いただきまして
誠にありがとうございます
ます。春号vol.38から、ホームページを中心に掲載することとなりました。
郵送をご希望の方は下記アドレスまでお名前・住所をお送りください。(E-mail: takagi@niye.go.jp) お手数をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願いします。



←QRコードから
ご覧いただけます。

次号は、
7月1日発行予定!

「交流の家HP」
「Facebook」で
当所の情報を更新中



国立赤城青少年交流の家 <http://akagi.niye.go.jp/>

TEL:027-289-7224 (9:00~17:00) FAX:027-289-7226

あかぎ カラゴロリ

〒371-0101 群馬県前橋市富士見町赤城山27 E-mail: akagi@niye.go.jp

風と太陽のくにからの通信誌

カラゴロリ



『よろしくお願ひいたします』

満開の桜に出迎えられ、着任いたしました所長の松村です。

3月末まで、宮城県にありますが「花山青少年自然の家」に勤務してあります。所長としては2施設目となります。他にも新しく4人の職員(横山・田村・柴山・藤代)が、仲間入りいたしました。どうぞよろしくお願ひいたします。

本年度は、平成32年度から全面実施される「小学校学習指導要領の改訂」に伴い、施設を利用する小学校への教育プログラム開発を進めていきたいと思っています。

ちなみに私のDNAは群馬ですので、焼きまんじゅうは大好きです。「かかあ天下」も群馬の女性が働き者という意味だという事もちゃんと知っています。

私も一生懸命頑張りますので、応援くださいますようお願いいたします。

所長 松村 純子

【マイ Spoon・
フォーク作り！】

地域ぐるみで体験の風をおこそう運動

3月11日、「ぐんま昆虫の森」にお邪魔して「マイ Spoon・フォーク作り」を行いました。「ぐんま昆虫の森」は全国的にもユニークな「昆虫」をテーマにした体験型教育施設です。広い敷地には昆虫の生態をじっくり観察できる里山が再現されており、昆虫観察館の「ふれあいコーナー」などでは里山の生きものや世界の昆虫と身近に触れ合うことができ、多くの家族連れや学校が訪れる人気の施設です。

「マイ Spoon・フォーク作り」とは、自分で選んだ木の枝に穴をあけ Spoon（フォーク）の先を差し込みポンドで固めて、世界に一つだけの Spoon（フォーク）を作るといったものです。今回は10センチ前後に切って穴をあけた様々な太さ・形の枝を400本ほど用意しました。

昆虫観察館のエントランスホールの一隅をお借りして行いましたが、開館と同時に多くの家族や子供たちが Spoon（フォーク）作りにチャレンジしてくれました。一番簡単なやり方は、気に入った柄を選び穴にボンドを入れて Spoon（フォーク）を差し込んで固めるというやり方ですが、紙ヤスリでいいに磨いたり、ナイフで文字やマークを彫ったり、



マーカーでカラフルに色塗りをしたりと、時間をかけて取り組んでいる子供たちもたくさんいました。可愛いおそろいの Spoon・フォークセットを作る姉妹、「記念に」と体を二人で協力して作るおじいさんとお孫さんなど、思い思いに楽しそうに取り組んでいました。

どれも同じものはありません。

担当した4名の職員はお昼をゆくり食べる間もないほどの忙しさでしたが、手作りのオリジナル Spoon（フォーク）を大切に抱えてニコニコしながら帰る子供たちや家族を見送り、大盛況に喜び感謝しながら、残ったほんの50本ほどの柄と心地よい疲労感と共に帰途につきました。

(文：大工原)

【冬の赤城山を満喫！】

あかぎサンサンかがやきキャンプ

第4回あかぎサンサンかがやきキャンプは、2月に1泊2日で行う予定でしたが、積雪のため延期となり、3月4日に日帰りで行いました。内容は当初の予定通り雪遊びをメインに実施しました。参加者は当初より少し減って8名の参加でしたが、2月にできなかった分、みんな楽しみにしていたようです。



風を切って勢いよく滑りました。

はじまりの会を済ませてから、すぐにバスに乗って赤城山頂の第三スキー場に向けて出発しました。この日の気温は交流の家で20℃近くあり、スキー場に到着するまで雪の状況が心配でしたが、登るにつれて徐々に雪も見えはじめました。スキー場では、それぞれスノーチューブやソリ遊びを楽しみました。2人乗りのスノーチューブを使って初めて会う友達と一緒に楽しみ、新しい友達との関わりが持てました。



オリジナルのフォトフレームをつくり、みんなで撮った写真を入れました。

昼食は前橋市赤城少年自然の家でいただき、食後には大沼の水の上を歩いてみるなど、自然の家の周辺を散策しました。初めて氷が張った湖に乗った人も多く、驚きの声が上がりました。なかなかできない体験の機会となりました。

交流の家に戻ってからは、フォトフレーム作りをしました。フレームに木の実を付け、思い思いの作品に仕上がりました。この頃は暖かい日が続いていましたが、今回のキャンプでは、日常と違った様子を体験できたよい機会となりました。

(田野崎)

【本物の選手と関わり、練習をしました！】

小学生ラグビー交流会



平成30年3月17日(土)～18日(日)に小学生ラグビー交流会を行いました。群馬県の各チームと埼玉県のチームから小学生と指導者、合計117名の参加がありました。またワイルドナイツスポーツプロモーションの三宅さんにラグビーのクリニックを担当して頂きました。

今回は、選手同士の交流を深め、スポーツ選手としての資質の向上を図ること、各チームのチームビルディングを主なねらいとしました。1日目は、各チームを前半後半に分け、アドベンチャープログラムでチームビルディングを行うグループと三宅さんのラグビークリニックを受けるグループに分かれて行いました。夕方には、バーベキューを行いました。友達と助け合いながら準備や片付けを行いました。特に、5・6年生が低学年の児童を助ける場面が多く見受けられました。

2日目は、ワイルドナイツの現役選手や元日本代表の選手が4名加わり、合計7名で指導していただきました。子どもたちからも、「選手と一緒にプレーできて感動した」「選手でもタックルがかわいことがわかって安心した」との感想がありました。チームの監督や保護者のみな様からも「アドベンチャープログラムでは、普段子どもが見せない表情をみることでできて本当に良かったです。」「来年もぜひ開催して欲しい」等の感想を頂きました。



(文：阿左見)

交流の家を見る
魅力を紹介！

【あっ！が鍵のあかぎ】

はじめましての方も、お久しぶりの方も、こんにちは。やぎちゃんです。

昨年より約10年ぶりに赤ボラ(赤城法人ボランティア)に復帰しました。赤ボラを始めたきっかけは大学生の時に実習で「ユニバーサルキャンプ」という障がい児・高齢者ファミリーキャンプに参加したことでした。そこでの様々な思いをもったボランティアさんと出会ったことや参加者との交流を通して、「ありがとう」の言葉や笑顔をもたらえたことに喜びを感じました。自分のやりたいこと、好きなことを体現できるのが、この赤城の魅力だと思います。交流の家には様々な自然体験プログラムや創作活動など、魅力あふれる事業やプログラムがたくさん行われています。「あっ！が鍵の赤城に何かを探しに来てみませんか。きっと、自分に合った何かが見つかると思いますよ。」

今回は、赤城法人ボランティアの八木佑介さんに紹介をしていただきました。ボランティア養成セミナーに参加し、再びボランティア活動に関わってくれています。



赤城山ツーリズム 第9回

「変わらずに変えていく」

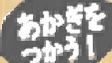
NPO法人まえばし農学舎 黛 若葉

この地域を盛り上げるために何をすればいいか考えた時に「どんなコンテンツがあればいいか」という話題によく出る。今まで新たなコンテンツを考えて成功した例があるのだろうか。もちろん、成功している地域もあるが、広報や仕掛けなど、相当高いレベルで勝負しなければ難しい。新たなものをつくるにはお金も人材も必要になる。

そこでこの赤城南麓も含め必要なのは「変わらずに変えていくこと」なのではないか。実際その地域にある素材を少し違う角度から見てみる、少しだけアレンジを加えてみる。私たちが当たり前と感じる自然も川も滝も、都会の方から見たら魅力的な観光資源。例えば今あるものを少しだけオシャレにしてみる。それだけで全く違うものになる。こういうものだと「仕掛け」をしていくことが結果的に地域を変えていくことにつながっていく。



見学相談会のお知らせ



皆さまに安心・快適に交流の家をご利用いただくために、事前の打ち合わせやプログラム内容を相談する機会として、今年度も「見学相談会」を開催いたします。施設の全体説明会を行った後、必要に応じて職員との打ち合わせや施設見学を行います。参加を希望される方は、実施日の7日前までに電話にてお申し込みください。実施日に関してはホームページをご覧ください。

※施設見学の下見は随時受け付けております。(文：田村)

これからの動き 下記の事業の詳細はこちらまでお問い合わせください
TEL: 027-289-7224 (国立赤城青少年交流の家)。ホームページにも随時掲載します。

■ボランティア養成セミナー
6月16日(土)～17日(日)1泊2日

ボランティアに関する知識を学んだり、よりよい人間関係を構築するために対象者理解を深めたり、社会に積極的に関わろうとする若い人材を育成します。

■あかぎチャレンジアンドチェンジキャンプ
8月4日(土)～12日(日)8泊9日

赤城山から榛名山へ全ての行程を自分たちで歩いて向かいます。8泊9日をかけて仲間や自分と向き合い、困難を乗り越えた後には大きな達成感が生まれます。

■教員免許状更新講習
①7月26日(木)～28日(土)
②8月20日(月)～22日(水)
③11月23日(金)～24日(土)

自然環境や人間関係を構築するためのプログラムを通して、免許状の更新を行うと共に、教員の資質向上を図ります。詳細は交流の家のホームページをご覧ください。(①③は定員に達しました。)